



獨逸新聞 第二号

獨逸國ニ於テ煙草專賣法ヲ
施行スル如何ヲ論ス 第二

大藏省
翻譯課

4272



114
A1417
I



有様
 如何ニ由ラ之レカ區別ヲ立ツルヲ要ス是故ニ國中ノ人
 民ノ有様甚タ不同ナル時ハ乃チベルソナールストイエルニ於
 テモ亦從テ大ニ之レカ區別ヲ立テサルヲ得ス今茲ニ淺近ナル
 例ヘテ以テ各個人ノ甚タ不同ナル有様ヲ指示セシニ譬ヘハ茲
 ニ甲乙二人アリテ甲人ハ家ニ眷族ノ支給ヲ要スルモノナク且
 ツ體軀強壯ニシテ最モ富シタル獨身ノ人ナリ又乙人ハ之レ
 ニ反シテ家ニ父母妻子等數多ノ眷族アリト雖モ其老弱又ハ
 病身ノモノ而已ニシテ更ニ家業ヲ助タルヲ能ハサルカ如キ貧
 窮人ナリ右甲乙二人ノモノニベルソナールストエルヲ賦課ス
 ルニ當テ此ノ甲乙二人ノモノノ情態ニ從テ自カラ之レカ區別
 ヲ立テガル可ラカルナリ然リ而シテ納稅者タル各個人ノ情態

牧野照譯

大正十一年四月

ナルモノハ千差万別更ニ極リナキモノナルカ故ニ此ノ情態
應シテ各個人ニ課賦スル所ノペルゾナルストイエルニ於テ
モ亦預メ其區別ヲ論定スルハ甚タ易事ニ非サルナリ従来ペル
ゾナルストイエルノ法ヲ論セシ所ノ學者ガ未タ嘗テ各個人
ノ情態ニ從テ之レカ區別ヲ立テサル可ラサル所以ノ理ヲ論辨
セザリシハ是レ甚タ怪ム可キカ如シト雖氏實際上ニ於テハ各
個人ノ情態ニ從テ之レカ區別ヲ立テ、徵募セシメ昭然タリ是
故ニ従来ペルゾナルストイエルノ法ヲ實地ニ施行スルニ當
テ未タ營業スルヲ能ハサル所ノ小兒ヲ各人ト區別セシハ即チ
實際上ニ於テ各個人ノ情態ニ從テ之レカ區別ヲ立テシ証例ト
云フ可シ

夫レ國中ノ人民タルモノハ納稅ノ義務アルヲ以テ始メテ公民
タルニ權利ヲ有スルモノナリ其故如何トナレハ各國皆メ其制

ヲ異ニスト虽此租稅ヲ納ムル所ノ人民ニ非レハ決シテ撰擧人
タルノ權利ヲ有スルヲ能ハサルヲ以テナリ古来各國ノ形勢表
ニ於テ考察ヲ下スキハ國家ノ納稅者タル公民中ニ於テモ亦
其納稅ノ額ノ多寡ニ由テ大ニ各個人ノ權勢ヲ異ニシタリシカ
我カ獨シ國ノ如キハ目今尚ホ此ノ弊風ノ存スルモノ有リト虽
此併國ニ於テハ輒述大ニ此ノ弊風ヲ脱却シタレハ該國ノ學者
中我カ獨シ國ノ有様ヲ見テ之レヲ慨嘆スルモノ有ルニ到リタ
リ然レモ我カ國將來諸般ノ開進ニ從テ此ノ弊風ノ如キモ速カ
ニ消尽スルノ域ニ達スルヲ昭々乎トシテ更ニ疑ヒヲ容レサル
ナリ

以上陳スルカ如クペルゾナルストイエルヲ賦課スルニハ先ツ
其納稅者タル各個人ノ貧富ヲ資カトヲ察シ之レニ應シテ徵收
セサル可ラサルモノナリ

右キパルゾナールストイエルノ法ヲ感シニ稱揚スル所ノ論者ハ
ベルゾナールストイエルニ於テハ上ノ如ク各個人ノ情態ニ應シ
テ區別ヲ立テ直テニ納稅者ヲ指名スルヲ得ルモノナレハ是
レ即チ直稅法ナルヲ以テ各個ノ納額又々從テ明白ナルヲ得ル
カ故ニ大ニエルトラীগストイエル出ルニ勝ル所以ヲ述ヘタ
リシカレ此ノ論ノ如キハ只其直稅ト云ヘル名稱ニ而已心醉シ
テ實際ノ如何ヲ問ハス一向ニ之ヲ妄信セシヨリ起リタルモノ
ナレハ甚タ謬謬ノ説ト云ハサルヲ得ヌ

夫レ各個人ノ情態ニ應シテ區別ヲ立ツル所ノベルゾナールス
トイエルノ大ニエルトラীগストイエルノ法ニ勝ル所以ノモ
ノハ他ナシ即チ各個人ノ情態ニ應シ之レカ區別ヲ立テ、以テ
一トタヒ課稅ノ額ヲ確定セシ以上ハ官府故ナクシテ收稅ノ定
額ヲ增加減少スルヲ能ハスレテ納稅法ノ鞏固堅牢タルニ到ル

ニ在リ然ルニ目今實際上ニ就テ思案スルハ各個人ノ情態ニ
應シテ區別ヲ立ツルノ法ナルベルゾナールストイエルノ法ト
虽氏決シテ堅確ノモノニ非スレテ官府其課稅ノ定額ヲ自在ニ
増加減少スルヲ得ルモノナレハ彼ノエルトラীগストイエル
ト其名ヲ異ニスト虽氏其法ノ鞏固ナラサルニ到リテハ更ニ相
異ナル所ナキナリ然ラハ則チ論者各個人ノ情態ニ應シテ賦
課スル所ノベルゾナールストイエルノ法即チ應分法ヲ以テエ
ルトラীগストイエルニ勝レリト論セシハ只ニ其虛名ヲ尊フ
モノニシテ決シテ其實事ヲ洞察セシモノニ非サルコト昭然ナ
リ
世ノ論者ハ一般ニ直稅ノ法ヲ以テ間稅ノ法ニ勝レルモノトシ
尽ク間稅ノ法ヲ不可ナルモノト認定スト虽氏是レ亦タ謬見ト
云フ可シ如何トナレハ其品物ノ種類ニ由リテハ間稅ノ法ヲ死

行シテ及テ公衆ノ利益トナルモノ有レハナリ其間税法ヲ施行
シテ可ナルモノハ即チ殊ニ奢侈ニ属スル品物等ニシテ重ク課
税スルモ妨ケナキモノヲ云フナリ

然リトモ各個人ノ情態ニ應シテ課賦スル所ノ應分法ナルモ
ノハ之レヲエルトラীগストイエルノ法ニ比スレハ甚ク周密
ナルモノニシテ人民ニ偽計詐術ヲ行ヒテ脱税ヲ課ルヲ得サ
シムルノ法ナレハ其良法タルコト固ヨリ論ヲ俟タストモ世ノ
應分法ヲ論スルモノハ大率皆テ應分法ハ即チ直税法ナリト云
フノ故ヲ以テ之ヲ稱揚スルニ過キサル而已決シテ之レヲ實際
上ニ徴シテ其得失利害ヲ論定シ以テ此ノ法ノ何物タル哉ヲ詳
細ニ説明セシモノニ非サルナリ

是故ニ世ノ應分法ヲ論スルノ士ハ此ノ直税法ナル應分法ヲ以
テエルトラীগストイエルノ法ニ比較スルハ大ニ之レニ勝

ルノ初狀アルカ故ニ應分法ノ甚ク良法タル所以ヲ稱揚スル而
己ニシテ決シテ實地上ニ就テ之レカ可否善惡ヲ講究探討セシ
モノニ非サレハ若シ之レヲ難スルモノ有リテ直税ナル應分法
トモ目今現ニ官府ヨリ其税額ヲ任意ニ減少スルコト得レハ
實際上ニ於テハ決シテエルトラীগストイエルト相異ナルコ
トナシト論スルハ論者決シテ之レカ答辯ヲ為スト能ハサル可
シ故ニ世ノ應分法ヲ論セント欲スルモノハ先ツ經濟ノ本理ヲ
覺リ時勢人情ノ如何ヲ察シ而シテ此ノ應分法ノ何物タルヲ明
カニ得知シ然ル後テ之レヲ各自ニ區畫シ各個ニ就テ其可否善
惡ヲ講明スルニ非サレハ決シテ其目的ヲ達スルコト能ハサル可
シ
此ノ如ク各個人ノ情態ニ應シテ區別スル處ノ應分法ヲ各個ニ
別チ各部ニ就テ之レカ可否得失ヲ講究スルハ乃チ現今ノ時

勢人情ニ於テ普ク此ノ直税法ヲ施行ス可ラサルモノ有リテ或
ハ之レヲ実施シテ可ナルモノ有リ又タハ不可ナルモノ有ルヲ
覺知スベシ

元來租税ナルモノハ國中人民ノ情勢ニ適應スルヲ最要トス是
故ニ國中一般ノ人民大ニ直税ノ法ヲ希望スルニ到レハ即チ勢
ニ自カラ之ヲ防止スルヲ能ハサルニ到ル可シ依テ我カ輩ハ將
未間税法ノ轉シテ漸次ニ直税法トナルヲ期ス然レモ我カ輩
ハ上ノ論者ノ如ク世態人情ノ如何ヲ問ハス諸税ノ何物タルヲ
論究セス各種ノ租税ヲ同一視シテ悉ク之レヲ直税法ニ変セン
トスルカ如キ輕躁論者ニ左祖スルヲ欲セサルナリ
以上論スルカ如ク善良ナル直税ノ法ト雖モ人民ノ狀勢ニ適應
セザレハ更ニ其功績ヲ奏スルヲ能ハサルヲ以テ租税賦課ノ方
法ヲ設定スルノ要ハ先ツ其國人民ノ情勢如何ヲ察スルニ在ル

ノミ然ルニ現今ノ諸税法中ニ於テ多クハ既ニ時勢ニ後レ民情
ニ適合セサルモノトナリタル所ノ間税ノ法アリト雖モ官府ハ
専心ニ之レヲ墨守シテ直税ノ法ニ変改セサルカ如キハ甚ク解
シ難キノ事ニ非ス哉

右ニ陳述スルカ如ク現今ノ諸税法中ニ於テ既ニ世態ニ後レ民
情ニ適應セサルモノトナリタル間税ノ法數種之レ有ルカ故ニ
我カ輩左ニ之レカ一二例ヲ開載シテ以テ読者ニ示シ合セテ意
見ヲ開陳セントス蓋シ我カ輩學士ガ一般ニ非難スル所ノ世態
ニ後レ民情ニ違セサル間税法ト稱スルモノハ即チ上等ノ人民
ト下等ノ人民トノ區別ナク又タ貧民ト富民トノ差異ナク一般
ノ人民ニ必要ナル品物ニ課賦スル所ノ間税法ヲ云フナリ例ハ
ハ方今食鹽ニ賦課スル所ノ間税ノ如キモノ是レナリ
又タ今日上一般ノ人民ノ生計上ニ必要ナル品類

按ヌルニ必
長

ナル品物ノ種類 即チ價セノ騰貴スルト下落スルトニ係ラス
般ノ人民カ常ニ購求セサルヲ得サル所ノ品類等ニ賦税スルニ
尙税ノ法ヲ施行スルハ甚ク不可ナルモノトス此ノ理ニ由テ考
フルキハ上ニ記載セシ所ノ食鹽税ト齊シク現今バン税並肉税
ヲ賦課スルニ尙税法ヲ用ユルカ如キハ甚ク正理ニ戻ルモノト
云ハサルヲ得也

以上論スルカ如ク各種ノ品物ヲ區別シ各個ニ就テ尙税法ノ當
否如何ヲ辨述スルキハ其利害得失モ亦自カラ判然タルヲ得ヘ
シ
然レモ我カ輩ハ今又夕右キ食鹽及ヒバン等ノ品物ニ尙税ヲ賦
課スルノ甚ク不可ナル所以ノ原因ヲ高ホ詳密ニ論究シテ以テ
世上論者ノ惑ヒヲ解カントス抑モ食鹽及ヒバンノ如キ人民ニ
平常必要ナル物品ハ貧人ト富人トノ別ナク必ス各個人總テ同

様ニシテ消費セサル可ラサルモノナレハ之レニ尙税ヲ課ス
ルハ貧人ハ之レカ為メニ大ニ困難ナル場合ニ到ル可シ其故
如何ナレハ尙税ナルモノハ自然ニ重複増加シ場キモノナレ
ハ知ラス知ラス苛斂ニ陥ルヲ免レサルヲ以テ其品物又夕次茅
ニ高價トナルヲアレハナリ
以上解説スル所ノ食鹽税及ヒバン税等ノ事ニ就テハ我カ輩未
タ充分ニ論理ヲ尽カル所アレハ尙ホ審クニ綏述セサル可ラ
スト雖モ須臾之レヲ他日ニ譲リ本論ニ入テ現今諸學者カ盛
ニ論辯スル所ノ煙草專賣法ヲ施行スル如何ノ一大疑問ヲ論セ
ントス
煙草税ナルモノハ上ノ食鹽税及ヒバン等ト全ク其趣キヲ異ニ
スルヲ以テ之レト同一視ス可ラサルモノアルナリ夫レ煙草ノ
品類タル上等ノ品物ト下等ノ品物トノ區別アリテ人民中區

ハ帝ニ其上等ノ品物ヲ消費シ貧人ハ帝ニ下等ノ品物ヲ消費
ルカ故ニ之レニ税ヲ賦課センニハ必ス上等ノ品物ト下等ノ品
物トノ區別ヲ設ケサル可ラス而シテ其之レカ區別ヲ立ツルハ
即チ烟草專賣ノ法ヲ施行スルニ如ハナシ此ノ烟草專賣ノ法ヲ
施行スルキハ官府ハ自カラ烟草ノ製造者トナリ又自カラ其
買人タルノ理ナレハ官府ヨリ自在ニ烟草ノ品類ヲ典賣シテ上
等ノ品物ト下等ノ品物トノ區別ヲ立テ然ル後チ上等ノ品物ニ
賦課スルニ重税ヲ以テシ下等ノ品物ニ賦課スルニ輕税ヲ以テ
スルヲ得可シ是レ即チ世上論者カ大ニ烟草專賣法ノ設定ヲ希
望スル所以ナリ
我々輩ハ右ノ烟草税ノ事ニ就テ再ヒ間税直税ノ利害得失ヲ審
カニ研究セントス
目今間税ト直税トノ可否得失ヲ論究スルハ諸學者ノ義務ナ

ルヲ以テ世ノ論者カ盛ニ其得失ヲ辨述スルヲトハナリタリ而
シテ其直税ヲ可トスルモノ、論旨ニ由レハ即チ直税ナルモノ
ハ納税者ナル各個人ヲ直チニ指目シテ徵收スルヲ以テ各個人
納額明瞭ナリト
是故ニ治者被治者ヲシテ安寧ヲ得ク保護ヲ蒙ルハ此ノ如ク官職
ノ事務此ノ如クシテ納税ノ額幾干ヲ要スルト云フヲ綿密ニ知
ルヲ得セシム可シト雖モ間税法ニテハ各個人ニ之レ等ノ事ヲ
明白ニ知ラシムルヲ能ハサルヲ以テ間税法ノ大ニ直税法ニ及
ハサル所以ヲ主張シタリ又タ間税法ヲ可トスルノ論者ハ目今
各國共ニ開明ニ赴キ官府私ニ租税ヲ徵收スルヲ無ク租税徵募
ノハ凡テ之レヲ公然ニ施行シテ之レヲ人民ニ隱秘スルヲナ
ケレハ間税ノ法ヲ施行スルト雖モ決シテ妨ケナカル可キ旨ヲ
述ヘタリ然ルニ公正不編ノ道理ヨリ考フルハ直税法ノ明白

ニシテ且ツ経済ノ正理ニ合スルニ如カサルヲ論ヲ俟タサル

大
痛
界

